

吉野川ダム統合管理事務所のSDGsに向けた取り組み



持続可能な開発目標 SDGs

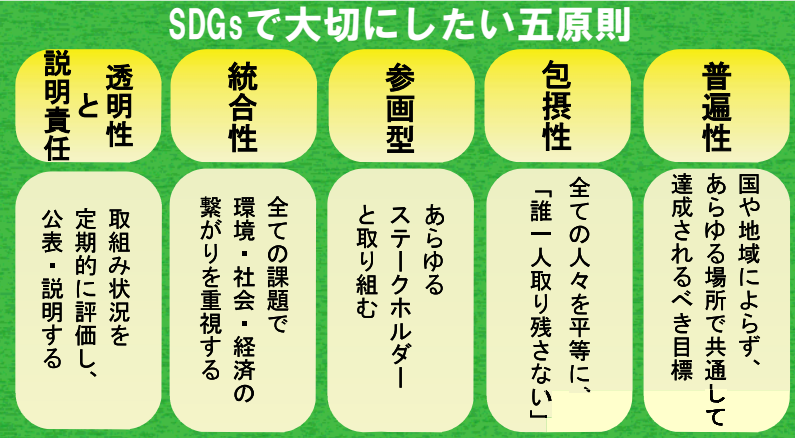
持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) の略、以下「SDGs」という) は、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。SDGsは、2015年9月に開かれた、環境問題と持続可能な開発に関する国際連合主催の国際会議で、国際連合の193の加盟国の全会一致で採択し、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓い、17のゴール(目標)とそれぞれの下に、より具体的な169のターゲット(達成基準)を設定しています。また、2015年12月には地球温暖化対策としての「パリ協定」が採択されており、この2つの目標は今、世界を大きく変える道しるべとなっています。

SDGsの前身であるミレニアム開発目標 (MDGs) は、平和や貧困撲滅、環境保全、人権などを謳ったミレニアム宣言を基に設定された発展途上国を対象にした国際社会共通の目標です。SDGsは、気候変動や格差などの幅広い課題解決のため、先進国も発展途上国も全ての国が関わって取り組む目標です。

SDGsの根幹にある「持続可能な開発」とは、「将来世代のニーズを損なわずに、現代世代の

ニーズを満たす開発」のことを言います。SDGsにはあらゆる分野における社会の課題と長期的な視点でのニーズがまつているといふことです。

環境・社会・経済の3つの要素は相互に関連し、持続可能な社会に必要な不可欠なものです。そのため、環境・社会・経済の調和を意識しながら、統合的 (SDGs 5原則) に課題解決に取り組むことが重要となります。



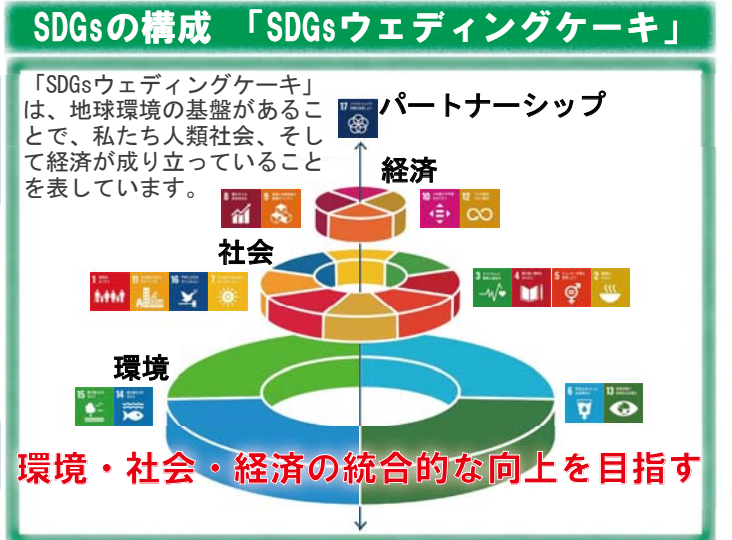
持続可能な社会に向けた国際的な潮流

- 2015年9月 「持続可能な開発のための2030アジェンダ」採択
※ 複数の課題の統合的解決を目指すSDGsを含む。
- 2015年12月 「パリ協定」採択
※ 2℃目標達成のため、21世紀後半には温室効果ガス排出の実質ゼロを目指す。

SDGsの17のゴール (Sustainable Development Goals) とパリ協定の採択

新たな文明社会を目指し、大きく考え方を転換(パラダイムシフト)していくことが必要。

出典：環境省 (第五次環境基本計画の概要)



SDGs勉強会を実施

当事務所においてSDGsの取り組みを進めるにあたり、四国内でSDGsを推進している環境省中国四国地方環境事務所四国事務所に協力を依頼し、取り組む際の手順と具体的な進め方についてご助言頂きました。

次に、当事務所でのSDGsの基本的な考え方を習得することを目的に、四国環境パートナーシップオフィス(以下、「四国EPO」という)の亀山さんに、SDGsの背景や取り組み意義などについて講演を頂きました。

環境省 四国EPOにて

近年、重要性が高まっている環境分野をはじめとする諸課題を解決し、持続可能な地域を実現するためには、国民、行政、民間団体などが共通の課題を認識し、連携・協力し、対等の立場で取り組みを行うことが重要です。そこで、環境省は地域での環境パートナーシップ(協働して事業を営む組織)推進の拠点づくりを進め、地方環境パートナーシップオフィス(以下「PFO」という)を全国8か所(北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州)に設置しました。

四国EPOは、四国におけるパートナーシップづくりの役割を担う拠点として、2007年1月に香川県

ローカルSDGs四国

ローカルSDGs四国(以下「LS四国」という)は、四国の地域課題を解決し、持続可能な地域づくりを進めるために、全国初の取り組みとして、今年2月17日に設立されました。

LS四国は、環境省中国四国地方環境事務所四国事務所と四国EPOが事務局となり、国土交通省四国地方整備局など様々な協力機関で構成されています。

LS四国は、「いのち輝く、青い国・四国を次世代へ」をビジョンにして、自然資源の恵み・つながりを活かし、伝え、地域・社会がそれぞれの特性を發揮しながら、連携して支え合いSDGsの目指す環境・社会・経済の調和を図りながら持続発展する活力あふれる四国地域を創造していきます。

“地域循環共生圏”とは、

各地域が地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、環境・経済・社会が統合的に循環し、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方です。



編集室より 聴講後記

SDGsは地球環境を守り、全ての人が将来にわたって住み続けるための「持続可能な開発目標」であることを学び、私たちの日常生活に密接に関係していると感じました。これまでは、日常生活の中でエコバッグの活用や節電等をしていましたが、このほかにも地元で生産されたものを利用する地産地消など、日常生活の中でSDGsに貢献できることが分かりました。皆さんもぜひ、日常生活の中でSDGsに貢献できるものを探してみてください。

編集室

SDGs 事務所勉強会

四国EPO事務局長 亀山公実子さんのWeb講習会の様子

この方にご講演を頂きました

四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO) 事務局長 亀山 公実子 さん

香川県で生まれ、高校生の時に外国に憧れたことから、関西の外国語大学に進学。交換留学で1年間アメリカの大学で現地の学生と一緒に学び、その中で様々な価値観や多様性を実感。現在は、環境分野に関わる相談対応や情報提供などを通じて、持続可能な社会づくりに向け、様々な主体の協働や参画の推進を支援している。

SDGsワークショップを終えた事務所内の変化

私は、SDGsの講習会とワークショップに参加して、事務所の取組みの視点だけでなく、私の主婦としての立場からもSDGsについて考えました。ダムの水が川を流れて私たちの家庭に届き、家庭で節水をする事でSDGsに貢献できると知りました。

私は、これから今回学んだSDGsの視点で、いろんな物事との関連を見つけようと思いました。

吉野川ダム統合管理事務所
管理課 期間業務職員
なかうち ひでみ
中内 秀美 さん



私は、SDGsの講習会とワークショップに参加するまでは、SDGsについてあまり意識していませんでした。また、今年の4月から事務所に入ったので、事務所でどのような取組みをしているのか把握しきれない状態でした。しかし、今回のワークショップで、私の課以外にも事務所全体の取組み内容と関連するSDGsについて把握することができ、私もSDGsに貢献しているかと思いました。

吉野川ダム統合管理事務所
防災情報課 期間業務職員
やの ちえこ
矢野 知恵子 さん



私の班は、堆砂管理、地すべり対策、流木処理などについて話し合いました。今回のワークショップで、堆砂管理の時に発生した土砂が再利用されており、別の形で役に立っていることを知りました。また、私は事務所の取組み内容や目的について理解を深めることができました。そして、私たち1人1人が、水を大切に利用するなど、資源の有効活用や環境保全を心掛けることでSDGsに貢献できると思いました。

吉野川ダム統合管理事務所
総務課 期間業務職員
くらもと まゆみ
倉本 真由美 さん



私は、ワークショップに参加して、水に関する事業はSDGsの「安全な水とトイレを世界中に」以外にも様々なゴールに関連していると実感しました。

私は、これから普段の生活の中で人の接し方など「人や国の不平等をなくそう」について心掛けようと思いました。これが最終的に「貧困をなくそう」などSDGsの様々なゴールに繋がっていくと感じています。

水資源機構池田総合管理所
第一管理課 主査
おくい よしき
奥井 芳樹 さん



私は、ワークショップをするまでは、SDGsは発展途上国と大きく関連しているかと思っていました。しかし、班の話し合いの中で、事務所の取組みがSDGsに直接関連していることを知り、SDGsは私たちの仕事と深く関連していると感じました。

私は、これから事務所の取組みがSDGsに貢献していることを意識しながら、仕事に取り組んでいこうと思いました。

吉野川ダム統合管理事務所
防災情報課 係長
かわさき りょうすけ
川崎 亮介 さん



～ 吉野川ダム統合管理事務所で行ったSDGsワークショップの流れ ～



※「すべての企業が持続的に発展するために -持続可能な開発目標(SDGs)活用ガイド- 令和2年3月 環境省」を基にワークショップを実施。

吉野川ダム統合管理事務所 「SDGsワークショップ」

ワンチームで SDGsの達成を目指す



吉野川ダム統合管理事務所でのSDGsワークショップの様子。事務所の職員全員がワンチームとなりSDGsに取り組んでいる。

～ワンポイント講座～
なぜワークショップを実施するの？
国土交通省 四国地方整備局
吉野川ダム統合管理事務所 所長
わたなべ けんじ
渡邊 健二



第2回ワークショップでは、第1回ワークショップの結果を基にポスターのデザインと活用方法について話し合いました。

国土交通省の取組み
国土交通省では、流域のあらゆる関係者が協働し、水害を軽減させる治水対策「流域治水」や新型コロナウイルス感染症禍における水災害リスク低減を通じて、SDGsの達成に貢献しています。

日本政府が主催したイベントに国際連合の加盟国をはじめとする関係者が出席し、赤羽国土交通大臣が水関連災害に対処するための総合的な流域管理「流域治水」について各SDGsの関係を具体的に示し、取組みを進めることの重要性を訴えました。

「SDGsに関するハイレベル政治フォーラムのサイドイベント」の概要

ワークショップ開催
当事務所は、SDGsワークショップを2回実施しました。

第1回ワークショップでは、当事務所の全ての事業や活動等の取組みとSDGsの関連性を把握し、事務所の全職員で共有しました。

吉野川ダム統合管理事務所の全職員が、日々携わる業務の目標を理解するとともに、SDGsとの関連性を身近に感じることができればと思い、ワークショップを開催しました。また、自分たちでSDGsについて考えることで、亀山さんにご講演いただいた内容を、自分ごと化することにも繋がったと思います。

1～2ページに掲載した吉野川ダム統合管理事務所のSDGsポスターは、今回のワークショップの結果を基に作成しています。このポスターの他、ワークショップで議論した細かな内容についてもホームページなどで広く公表します。